

令和 8 年度進行管理 **戦略点検シート**

◎基本政策 2 健康で安心な生活基盤の整備

主要課題	No. 27	がん対策の推進
------	--------	---------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●

主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。

4年後の 目指す姿	区民が、がんに関する正しい知識を持ち、主体的ながん検診の受診が促されるとともに、がん患者及びその家族ががんと共生しながら自分らしい地域生活を送っている。
計画期間 の方向性	〇がんに関する知識の普及と検診受診率の向上 がんに関する正しい知識の普及啓発を推進するとともに、国の指針に基づく検診を実施し、がんの早期発見・早期治療に向けて、受診率の向上に取り組んでいきます。 〇がん患者等の地域生活に向けた支援の推進 がん患者及びその家族が、がんと共生しながら自分らしい地域生活を送れるよう、必要な支援の充実を図ります。

事業費（令和7年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で何をしたか（実績） 戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割							事業費(千円)	
110	各種がん検診の実施	健康推進課	がんの早期発見・早期治療につなげ、区民の主体的ながん予防を促進する。							738, 089千円	
										(805, 191千円)	
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)		
	① 胃がん検診受診率	% (受診者数)	15.1 (10, 106)	14.9 (10, 074)	16.4 (11, 142)	18.6 (10, 912)					
	② 大腸がん検診受診率	% (受診者数)	26.6 (18, 816)	26.4 (18, 841)	27.1 (19, 532)	30.3 (19, 280)					
	③ 肺がん検診受診率	% (受診者数)	28.6 (20, 200)	28.5 (20, 315)	30.0 (21, 537)	30.8 (21, 189)					
④ 子宮がん検診受診率	% (受診者数)	41.1 (11, 715)	40.0 (11, 711)	41.0 (12, 561)	51.6 (11, 852)						
⑤ 乳がん検診受診率	% (受診者数)	39.1 (7, 904)	38.6 (8, 238)	40.4 (8, 791)	53.2 (8, 446)						
111	がん知識の普及・啓発	健康推進課	がんに関する適切な知識を普及・啓発する。							506千円	
										(601千円)	
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)		
	① 啓発事業の実施回数		回	5	9	14	13				
	R5(2023)	コロナ禍以降は講演会は中止し、それに代わる普及・啓発を実施しております。10月の乳がん月間に区内4か所の銭湯で「ピンクリボンの湯」及びミニ講話を実施したほか、ピンクリボンキャンペーンとして、乳がん検診の受診勧奨及び乳房を意識する生活習慣についてのパネル展示等を行いました。また、2月の国際小児がんデーに「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催し、小児がんの理解促進を図りました。さらに、3月の女性の健康週間に「Women's Health in Bunkyo」と題して啓発イベントの開催や、区内女子大学等へ啓発物を配架する等、乳がん及び子宮がんの知識の普及に努めました。									
R6(2024)	9月のがん征圧月間にはがん啓発イベントを開催し、5つのがんの予防や検診及び療養について啓発しました。また、10月の乳がん月間に乳がん検診の受診勧奨や乳房を意識する生活習慣について、区民ひろばで啓発ミニブース設置や動画放映を行った他、区内4か所の公衆浴場でピンクリボンの湯の実施及び区内大学祭で乳がんモデル触診体験を実施しました。さらに、2月の国際小児がんデーに小児がんの子どもたちの絵画展の実施し小児がんの理解促進や、3月の女性の健康週間の女性の健康啓発イベントで乳がんや子宮がんに関する啓発に努めました。										
R7(2025)	がん征圧月間のがん啓発イベントで、5つのがんに関する疾患の知識、予防及び検診、療養について啓発しました。また、乳がん月間に検診の受診勧奨や乳房を意識する生活習慣について啓発するため、区民ひろばでのミニブース設置や動画放映の他、区内浴場組合の浴場でピンクリボンの湯の実施及び区内大学祭で乳がんモデル触診体験を実施しました。さらに、国際小児がんデーに小児がんの子どもたちの絵画展の実施及び女性の健康週間に開催する啓発イベントで乳がんや子宮がんに関する啓発を行いました。										

24	健康・体力増進事業		教育センター	子どもたちの健康に対する理解を深める。					43,784千円 (42,129千円)	
	主な取組実績			単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① がん教育ゲストティーチャー派遣校数			校	21	22	22	23		
	R5(2023)	小学校第6学年・中学校第2学年を中心に、地域にある医療機関と連携した外部講師を派遣し、がんについての正しい知識や自他の健康と命の大切さを学ぶとともに、がん患者や家族等のがんと向かう人々に対する共感的な理解を深め、共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力の育成を図っています。								
	R6(2024)	地域にある医療機関と連携した外部講師を派遣し、小学校第6学年・中学校第2学年を中心に、がんについての正しい知識と、がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図っています。								
	R7(2025)	地域の医療機関と連携し、外部講師を派遣することで、小学校第6学年および中学校第2学年を中心に、がんについての正しい知識と、がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めています。これらを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会の実現に寄与する資質・能力の育成を図っています。								
112	がん患者支援		健康推進課	がんの治療に伴う外見の悩みに対し、心理的・経済的な負担を軽減する。					17,028千円 (23,972千円)	
	主な取組実績			単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① がん患者ウィッグ購入費用助成者数			人	95	212	156	187		
	R5(2023)	令和5年度より、ウィッグに加え胸部補整具も助成対象商品としたほか、1商品当たり10万円/回、1人2回まで助成をすることで、がん治療に伴う脱毛や乳房切除による心理的・経済的負担の軽減を図ることができました。								
	R6(2024)	がん治療による脱毛や乳房切除等により外見の変化に悩みを抱えているがん患者に対して、これを補うためのウィッグ、胸部補整具の購入等に係る費用の一部を助成しました。								
	R7(2025)	7年度より、ウィッグや胸部補整具に加え帽子も助成対象品としたほか、1回の申請で複数品を合算可としたことで、さらにがん患者の社会生活の支援に寄与することができました。								
113	骨髄移植ドナー支援制度		予防対策課	骨髄移植ドナー等の経済的負担を軽減し、骨髄等提供希望登録者の増加を図る。					700千円 (490千円)	
	主な取組実績			単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 骨髄移植ドナー助成金交付者数			人	4	1	1	5		
	② 骨髄移植ドナー助成金交付事業者数			件	2	0	1	0		
114	骨髄移植など特別の理由による任意予防接種費用助成制度		予防対策課	感染症の発生予防等を図るとともに、経済的負担を軽減する。					21千円 (445千円)	
	主な取組実績			単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 任意予防接種費用助成金交付者数			人	1	2	3	1		
●特記事項（実績の補足）										

2 社会ではどのような動きがあったか（社会環境等の変化）		人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。
チェック	チェック項目	
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）	
無	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）	

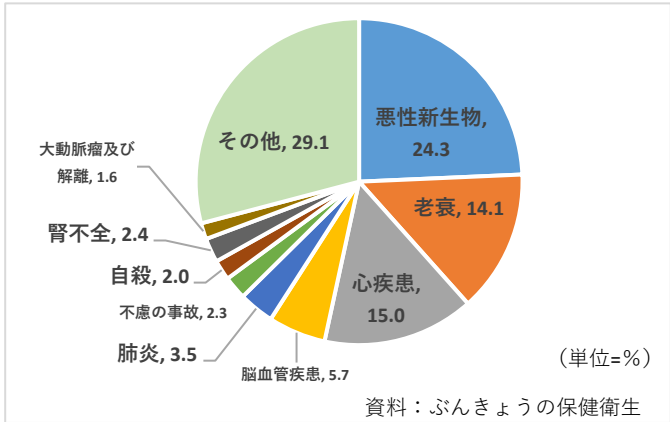
3 成果や課題は何か（点検・分析）		1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。
○がんに関する知識の普及と検診受診率の向上		
各種がん検診の受診率は、40歳以上のすべての区民に対する案内はがきによる周知の効果もあり、全検診で増加となっています。 イベント・SNS等でがんに関する知識を普及・啓発することで、疾患の理解を深め、自身やその周囲の方のいのちを守ることの理解につながっています。 外部講師（がん専門医）による授業を継続的に行うことで、児童・生徒のがんに対する理解を深め、生活習慣を見直すことに対する意識を高めることができています。		

○がん患者等の地域生活に向けた支援の推進

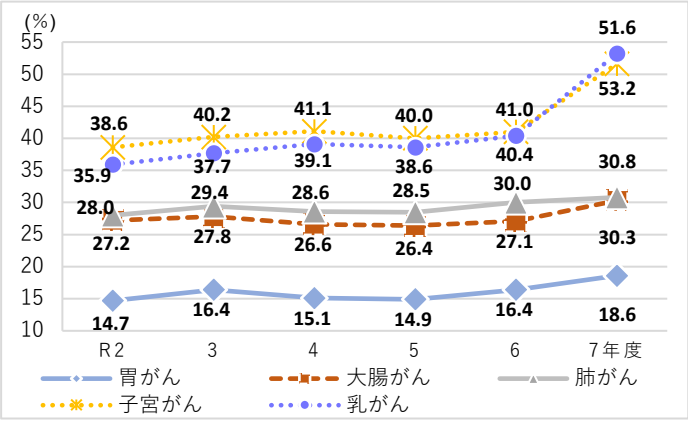
骨髄移植ドナー支援制度については、平成30年度の制度開始以来、制度周知を図るため広報を実施してきました。区内大学等に対する啓発チラシの配布等、引き続き制度の周知を行っていきます。

また、アピアランスケアに必要な経費の一部を助成することにより、治療や疾患に伴う外見の変化に悩むがん患者の経済的及び心理的負担の軽減につながっています。

●主要死因別死亡の割合（令和6年）



●各種がん検診の受診率



【SDGsの視点】

3 すべての人に健康と福祉を	がん検診の実施に当たっては、これまでの受診勧奨及び再勧奨に加え、受診対象であるすべての方に必要な情報を届けるため、6年度よりがん検診案内はがきを40歳以上のすべての区民に送付し、機会の周知に努めています。 がん患者等の地域生活に向けた支援を推進することは、がん患者及びその家族に対する療養生活の質の向上及び社会参加を支援し、孤立することなく自分らしい地域生活を送ることにつながります。 骨髄移植ドナー支援制度については、骨髄ドナーの経済的負担を軽減することにより、骨髄等移植の推進及びドナー希望登録者の増加を図り、全ての人々に必要とする保健サービスが提供される環境整備に努めます。
4 質の高い教育をみんなに	健康教育の一環として、がんについての正しい知識や自他の健康と命の大切さを学ぶとともに、がん患者や家族等のがんと向かう人々に対する共感的な理解を深め、共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力の育成を図っています。

4 今後どのように進めていくか（展開）

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、今後の戦略としての進め方を記しています。

予防・検診・療養等、がんに関する正しい知識と理解を促すため、普及・啓発を継続していきます。また、がんになっても安心して地域生活を送ることができるよう、引き続きアピアランスケアや若年がん患者への療養支援及び療養支援情報の整備やがん患者交流会を実施します。

骨髄移植ドナー支援制度については、ドナー登録者の増加につながるよう、制度周知を図るための広報活動を継続的に実施します。

骨髄移植など特別の理由による任意予防接種費用助成制度については、医療機関等に向けた制度周知を図るための広報活動を実施します。

教育現場においては、生活習慣改善や検診の意義及び療養等のがんに関する正しい知識の啓発を継続していくとともに、引き続き、小・中学校において地域の医療機関と連携した外部講師の活用により、がん教育の充実を図っていきます。